PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

56-110569

(43)Date of publication of application: 01.09.1981

(51)Int.CI.

F03B 9/00

(21)Application number: 55-014214

(71)Applicant:

ADACHI SADAYUKI

(22)Date of filing:

06.02.1980

(72)Inventor:

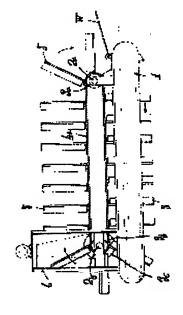
ADACHI SADAYUKI

(54) POWER GENERATING DEVICE BY USING WATER FLOW

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the average power whether or not a water level fluctuates by a method wherein a chain laterally laid with numerous vanes is stretched between sprocket wheels, and the sprocket wheels are supported by a floating body having desired duoyancy.

CONSTITUTION: The chain 4a is laid laterally with the numerous vanes 5 and stretched between the sprocket wheels 3a, 3b, which are supported by the cylindrical floating body 1 having the desired buoyancy. Whereby even in case where the water levels of rivers change, the floating body 1 is moved according to the change of the water level and the vanes 5 are always sunk under water by fixed areas, so that the average power can be obtained regardless of the change of the water level.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

昭56-110569

⑤Int. Cl.³
F 03 B 9/00

識別記号

庁内整理番号 7815—3H 砂公開 昭和56年(1981)9月1日

発明の数 1 審査請求 有

(全 4 頁)

の水流を利用した動力発生装置

②特

質 昭55-14214

②出

顧 昭55(1980)2月6日

@発 明

安達貞之

八尾市南木の本3丁目19番地の

14

⑪出 願 人 安達貞之

八尾市南木の本3丁目19番地の

14

四代 理 人 弁理士 林清明

明料 🛋

1 角明の名所

水流を利用した動力発生装置

2 特許請求の範囲

所要の呼力を有する円筒状の呼体を二本平行にして配して一体とすると共にこの呼体の的後端路に河ばにスプロケットホイールを具備した細を天々軸支し、この前後のスプロケッとは、イール間に延促した二条のエンドレス状チェン(側に水流低流をうけるようにした多数の羽根を破毀し、水流低にて羽根を介してチェン・スプロケッカ発生後置を駆動し、所違の動力を得るようにはにたことを特徴とする水流を利用した動力発生後間。

3 妈明心罪祖红战明

本名的は何川などの水流を利用して動力を 発生せしめるようになした緩慢に関するもので ある。 従来水流を利用した動力発生装置としては水力発動や水卓が提案されている。しかし水力用発電オービンや水車を回動せしめるには水流にある選עを受するため格登等を人工的につけ水流速を増すようにしている。

使って水力発電所では貯水池より一定の格差を 有するよう導入管を介して他の下方位置に発電 タービンを設置したり水車までの導水減火は緩 を設置したりしなければならない。

本発明はこれに変みて導水管やは等の特別な 歴戦を要することなく水脈のある河川等に繋留 式にて呼吸せしめる簡易な護域のみで水位の増 減変化によつても変ることなく動力を発生せし められるようになしたものである。

即ち 本 発明は 所要の 存力 を 有す も 円 間状の 序体を 二 本 平 行 に し て 配 し て 一 体 と する と 共 に この 呼 体 の 前 俊 州 郡 に 四 雄 に ス ブ ロ ケ ツ ト ホ イ ー ル を 具 歯 し た 細 を 天 々 細 支 し 。 こ の 朝 後 の ス ブ ロ ケ ツ ト ホ イ ー ル 値 に 最 架 し た 二 粂 の エ ン ド レ ス 伏 チ エ ン 間 に 水 死 趾 尻 を う け る よ う に し た 多

利用昭56-110569(2)

級の羽根を横架し、水流圧にて羽根を介してチェン、スプロケットボイールを駆動せしめ、この型動力にて動力発生設定を駆動し、所国の動力を得るようになしたことを受旨とする。 次に本発明を図示の実施例に基づいて説明する。

図に於て1は河川の水焼感に繋留せしめる俘 体で、この俘体1は円筒状で河川水ボ方向に所 要の及さを有し、且所要の俘力を其偏せしめる と共にこの俘体1を2本を一定の間隔を保持す るようにして平行に配設し、巡結ロッド等を関 楽して一体とする。

この呼降1、1の前後 胸端の上部には呼降1、1間を衝毀するようにして細2 a、2 bを軸支し、この各幅の両端にスプロケットホイール3a. 5 bを天々固着し、副後の幅2 a、2 bにて天々対向する前後のスプロケットホイール 5 a. 3 a 関及び 3 b. 3 b 間にエンドレス状のチェン4 a. 4 b を天々最栄すると共にこの呼降1に沿つて配置された対向する二乗のチェン4 a. 4 b 間にチェン投手方向に退ビッチに配した羽

何川の水流は厚体下方で水面下になる羽根に衝 突し、羽根に水比が発生する。この羽根にかか る水流比にて羽根は水流万河に流下し、羽根を 呉曜したチエンが必動され、スプロケツトホイ -ル3 a: 3 bに回転力が発生に同軸上に設け られた超動 ホイールる cよ りチエン 8 ホイール 3 dを介して動力発生要量 7 例えば発電機を回 動せしめて動力を発生(発電)せしめるもので ある。この場合製動ホイールは無速に応じた団 仮球性となるため、この似動ホイールと助力発 生観世のホイールとの比率のみでは該効力発生 装置に所当の国転収がほられない場合はこの両 ホイール 3 c . 3 d 間に変退機を介在せしめて 州退せしめる。 水紙巡と別股の水面下に於ける **国根及び羽根畝によつて脳初ホイールの坂大ト** ルクが設定されるので一般に似動ホイールのト ルクは大であるが回転返は遅いため使用する動 刀兎生領域の種別によっては構成機を介して増 巡 必切する必要がある。

乂上記数重を判川水流県に減留する場合水流方

この別板5は平板状でその一端鉄が水流と逆方向に折れ曲がつた L 字形とし河川水流低抗をできるだけ大きく受けさせっようになす。

尚対向する呼ば1.1間に要認される前後の短2 a.2 b は呼ば上記でなく調ば中央の内側面間に架設してもよい。そしてこの一方の曲例えば後方の曲2 b の一端に駆動ホイール3 c と呼ば1の上部に環設した架台 a に設けられた動力発生機1のホイール3 a とにチェン8を設架せしめる。この動力発生機1は設水ボンブ、発動機、コンプレッサー等使用途に応じて定めるものとする。

上述のように機成する助力発生接近はその金体は浮体にて発生する呼力にで水面上に浮近するようになすと共に水流によって現下しないようワイマーローブ V がにて定位値に乗留せしめる。

湖と同方向に伴体技手を合致するようにしても よいが、一定財機をもつ粉根にて破大の水焼抵 抗を得るためには水焼方向に対し呼体長手方向 をある角肢を保持せしめて無質することもある。

本発明による時は河川の水磁域に本発明設度を実置するのみで増水、減水によっても厚体により自動的に上下に変動し、常に沙根の一定面積が水没し、水磁艦抗により動力が発生せしめられるため平均した動力が得られると共に速度が固率で本発明設度を実施するために導水路等の線条作果は一切不要で、手軽に使用できる利点があっ。

4 図面の簡単な説明.

は本国的なな**。** 独一的は下風的。我「因は形風的、我?因

28,20 . 68

5m.50.5d. スプロケントホイール

30. . . 必動ホイール

